

これはコッポラが産んだ生きものだ。



特 別 完 全 版



製作・監督・脚本・音楽：フランシス F. コッポラ

マーラン・ブランド ロバート・デュバル マーティン・シーン ローレンス・フィッシュバーン デニス・ホッパー ハリソン・フォード

日本ヘラルド映画45周年記念作品 配給:日本ヘラルド映画  www.apocalypse.jp

これが、本物。今こそすべての人に、「地獄の黙示録・特別完全版」。この映画は小手先の合成ではないナマの迫力、映画づくりそのものが持つエネルギーと興奮を最大限に放っている。ここには映画と格闘するコッポラと役者たちの生々しい姿がある。22年を経て、コッポラの描いた戦争の、人間の、嘘と狂気、そして真実は、今最も切迫したテーマとして見る者ひとりひとりに突きつけられる。21世紀の始めに、大きな作品が現れた。



わずか32歳で「ゴッドファーザー」のメガホンをとり、アメリカの伝説的フィルム・メーカーとなったコッポラが全身全霊を捧げて創りあげた「地獄の黙示録」。総製作費3100万ドル、撮影日数は実に540日を数え、2本の「ゴッドファーザー」で得た自らの財産を投げ打って完成させた20世紀最大の巨編は、1979年に公開されるや否やその評価をめぐり賛否両論を巻き起こした。しかし結果的には1979年カンヌ国際映画祭パルムドールの他、アカデミー賞2部門、ゴールデングローブ賞3部門など主要映画賞を独占。映画史に残る伝説の作品となった。



53分の新たな映像：フランス人入植者の農園での幻想的なエピソード、兵士とプレイメイトの極限下での触れ合い、そしてマーティン・シーンと兵士たちとの交流。加えられた未公開映像によって「地獄の黙示録・特別完全版」はより深く、官能的でユーモアがあり、革新的な作品へと変貌した。カーマイン・コッポラによる新曲の追加、ヴィットリオ・ストラーロによるテクニカラーの再現：今は亡きカーマイン・コッポラのスコアからの2曲の新曲を含めた再録音を敢行。また“光の魔術師”、ヴィットリオ・ストラーロによる鮮やかなニュープリントが誕生した。



「私はこの映画のテーマについて、特に『戦争におけるモラル』ということについて考えを深める時間を持つことができた。この映画は、反戦映画というよりも『反“嘘”映画』だ。戦争で本当に起きていることについて嘘をつくこと。人間が虐待され、拷問され、殺されていることがモラルにかなったこととして伝えられること。それが私はいちばん恐ろしい。それが戦争を持続させる。……この新しく、完全で、決定的なバージョンは、モラルのない世界にあって、モラルに従って振る舞うことを期待されたすべての少年や少女、若者たちに、私が持ったその考え方を伝えるために製作した。」——フランシス F. コッポラ

